

ライフケアガーデン熱川 本館

症 例 概 要 利用者：80代 男性 要介護1

病名：高血圧症、糖尿病、腎機能低下、右目失明（糖尿病網膜症）

大学卒業後は国内外でサラリーマンとして働き、定年後は当施設近くの別荘地へ移り住み悠々自適な生活をされる。数年前から高血圧と糖尿病の症状が出ていたが通院の負担感から治療を保留していた。認知症状はなくパソコンなどの電子機器を使いこなしている。

2023年6月、身体機能が急激に衰え要介護1の認定を受ける。独居であったため老人ホーム入居を希望し、担当ケアマネージャーから相談を受けたことで2023年7月、当施設入居となる。

熱川温泉病院や西伊豆健育会病院と連携した看護ケアでご入居者の健康状態が回復するだけでなく、各部署の親身な対応が前向きに生きていく希望ある毎日に繋がった事例。

内 容

入居当日、ご入居者の健康状態は非常に悪化していました。看護職員はすぐに受診を手配しご家族へ病状説明、熱川温泉病院を経て西伊豆健育会病院への緊急入院に至ります。腎機能低下で透析治療が必須であることが判明するも、ご入居者からは透析や今後の生活に対して不安を抱く発言がありました。看護職員はご入居者の不安を傾聴するとともに今後の治療や生活支援等のサポートを約束し、ご入居者は透析治療を受けながら当施設で生活することを決断されます。

2023年8月に西伊豆健育会病院を退院するも、ご入居者は腎機能低下による苦しみから車椅子生活を余儀なくされました。看護職員は健康状態を熱川温泉病院と共有し、ご入居者に血圧やクレアチニン値等の数値を説明、管理栄養士は好みに合わせて食事内容を見直し看護職員はその日の体調に合わせた自尊心を尊重するケアを実施、施設課や事務課職員は趣味であるパソコンの設置を手伝い当施設のホームページやブログを紹介させて頂きました。

多職種の取組みでご入居者の体調は徐々に回復して自立歩行が可能となり、ご友人とのメールや健康状態を記録して看護職員にアドバイスを求めることを日課として楽しみにしています。ご入居者は、「職員のおかげで今私は幸せを感じることができている」と話し、毎日の食事の感想を管理栄養士へ伝え、ホームページの改善について広報委員へ助言を行うだけでなく、ご自身のブログで当施設の生活や



透析治療の闘病記を発信しています。現在では更なる体調の改善がみられ、主治医の許可が出たことで他のご入居者や職員たちと外食を楽しむことができました。

ご自身の寿命についても前向きに受け止め、「生きている限り、誰かの役に立ち続けたい」と、認知機能と体力維持の目標を設定し幸せと感謝の気持ちを持ちながら最期まで自分らしく生きる意欲を示しています。

グループ病院との連携による看護ケアがご入居者の病状を回復するだけでなく、部署を越えた親身な対応が、幸せを感じながら前向きにご入居者らしく生きていく希望ある毎日に繋がった今回の事例をキラキラ介護賞として推薦します。